

四、ミキ先生とともに生きて

ミキ先生との思い出

前原 マツコ

昭和三十一年四月一日、父に連れられ中原校舎の職員室で、お下げ髪に丹前姿の先生にお逢いしました。

職員室の一隅を白いカーテンで仕切られた木製の畳ベットの横になられて、入学式の準備の指図をしておいででした。

帰り際「勉強よりも先生のお世話を一生懸命させて貰いなさい」との父の言葉を胸に、身ぶるいするような緊張感の中で武田学園でのスタートを切りました。以来九年間、先生のお食事や身の回りのお世話をさせて頂きながら、三年間の学生生活、卒業後は事務や舎監等、未熟な私には先生のお手やお心を煩わせながら沢山の沢山の事を教わりました。

文字通り寝食を共にさせて頂いた先生との数え切れない思い出の中から二、三ひもといってみました。

昭和三十五年頃、中島校舎へ移って間もない年の暮れ、大売出しで貰った無料映画の券で数回可部新劇へ映画を見に行きました。

「あなたは一足先に出て二宮産業の所で待ってなさい。後から行くから……」と、また、その逆もあって走って追いついた事もあります。

誰にも云わず二人だけの秘密にワクワクしながら土手を歩いた事をはっきり覚えています。

映画館が混んでいる時、「二階が空いているから上がろうや」と階段を上がりかけたら「一人十円頂きます」「それならいい」と下で立って見たこともあります。

また、折目の所にあつた演芸館に浪曲の実演を聞きに行った時のこと、最前列に空席を見つけられた先生は、「池口さんこつちこつち」とさっさと前へ行かれるのでお年寄ばかりの中を少し恥しい思いをしながらついて行きました。

これは結構強烈な印象で以来ラジオの浪曲をよく二人で聞いたものです。

広島駅近くの映画館に「知床旅情」を見に行った帰りの事、道端の露店で二十円の目玉焼き用フライパンを見つげられて、「包みましよう」の声をよそに「お金を払って来なさい」とさっさと行かれるので急いで追いつくと「見本と売用の重さが全然違つたでしょうが……」と教えて下さつた生活の知恵等。

多忙極りなき連日のご教務の中、寸暇をさいて束の間の休息にお供させて頂いた勿体ないほどの体験や、先生との優しく懐かしい思い出を、今心から誇りに思っております。

四、ミキ先生とともに生きて

神の如き存在であられた厳格で偉大なる武田ミキ先生の、最も優しく心とむ人間的なミキ先生の一面に大いに感  
激した思い出です。

苦難と試練の連続の中、文字通り逆境を乗り越えられ、九十三才の生涯（天寿）を全うなさったミキ先生のご冥  
福を心よりお祈り申し上げます。

みまかりし師は校内を巡られて今黄泉の旅に立たるる  
やすらかに眠りませよと師を送り野辺の帰りに木枯しも啼く